

H30A 1 学習指導要領における領域・内容
〔第3・4学年〕A 話すこと・聞くこと

- 1 徒歩での時間を示した上で説明している。
- 2 図書館の様子をくわしく説明している。
- 3 相手の知識を確認した上で説明している。
- 4 目印になるものを示して説明している。
- 5 交差点の数を確認しながら説明している。

【出題の趣旨】
相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すことができるかどうかをみる。

【過去の類似問題】
平成25年度
全国学力・学習状況調査
B 1 一、二、三

【二人の会話】

村上山さんは、駅で図書館への行き方をたずねられました。次の「二人の会話」で、村上山さんはどのように説明していますか。その説明として適切なものを、あとの1から5までのの中から二つ選んで、その番号を書きましよう。

すみません。図書館へ行きたいのですが、どう行けばよいでしょうか。青山橋の先にあると聞いています。

自分が見たいことを相手に伝え、さらに、自分が分かっていることも伝える場の設定。

相手の話を受けて、相手の状況を確認する場の設定。

自分の状況を伝える答え方を考える場の設定。

話す人は、知りたいことを今分かっていることも入れて相手に尋ね、聞く人は、相手の状況を確認する場の設定し、やりとりをする。

そうですか。では、その橋をわたってまっすぐ行くと左手に警察署が見えます。そこを左に曲がるとすぐに図書館が見えてきます。

村上山さん

※ステップ2

青山橋までの行き方は分かりますか。

はい。青山橋までの行き方は分かります。でも、その先の行き方が分からないのです。

【正答】

3、4

【予想される誤答例】

4のみ

【誤答の原因】

目印になるものを入れて説明していることは捉えられているが、会話から相手の知識を確認していることは捉えられていない。

【指導のポイント】

- 話し合いの進め方では、相手の発言を受けて話をつなぐことができるように、相手の発言を聞いて、質問する、復唱して確かめる、共感を示す、感想を言うなどの活動を低学年から仕組むこと。
- 話し手の意図を捉えながら聞き、効果的な助言をする活動を仕組み、特に、質問する活動を大切にすること。その際、分からないことを質問するだけでなく、相手のもつ情報を確認するための質問や話を聞いて理解したことが正しいかどうか確認するなどの質問ができるようにすること。

「友だちの話を聞き、質問したり、感想を伝えたりするためのステップを示す」

ステップ1：共感

- 相づちをついたり、うなずいたりして聞く。
- 大事なことを落とさないように聞く。

ステップ2：質問

- 分からない点を明確にするために質問する。
- 相手の情報を確かめるために質問する。※
- 話を聞いて理解したことが正しいかどうか、確認の質問をする。

ステップ3：助言

- 自分の体験をもとに、内容に応じた助言をする。
- 相手の選択の幅を広げるような助言をする。

H30A 5 学習指導要領における領域・内容
〔第3・4学年〕伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

（問い）部と部とのつながりが合っていない文の番号を、①から④までの中から一つ選んで書きましよう。また、部はそのままだとして、文の意味が変わらないように、選んだ文を正しく書き直しましよう。

※解答は、解答用紙に書きましよう。

選んだ文の番号……

書き直した一文

【春休みの出来事の一部】文のはじめにある数字は、その文の番号を示しています。

① ぼくは、校庭で野球の練習を毎日がんばりました。その努力は見事に実りました。② ぼくたちのチームは、地区大会で優勝したのです。③ 今年の春休みは、とてもじゆう実したものでした。でも、反省していることもあります。④ 反省点は、用具の手入れをあまりしませんでした。これからは、練習だけではなく、用具の手入れもしっかりがんばりたいと思います。

大山さんは、春休みの出来事について文章を書いたあと、読み返して、部と部とのつながりが合っていない文があることに気づきました。次の「春休みの出来事の一部」をよく読んで、あとの（問い）に答えましよう。

【正答】選んだ文章 ④

反省点は、用具の手入れをあまりしなかったことです。

【予想される誤答例】

反省点は、用具の手入れをあまりしなかったです。

【誤答の原因】

主語と述語を区別することはできているが、主語と述語を対応させた文章を書くことができていない。

【指導のポイント】

- 間違いが含まれる文章を提示して、どこを、どのように直すか話し合い、推敲のポイントを全員で共通理解する活動を仕組むこと。
- 間違いが含まれたところを選び、どのように直すかを考え書き直す活動を取り入れること。
- 読み返すときは、主語と述語があっているか、句読点は正しく打っているかなど気をつけるポイントに沿って、書き直す活動を仕組むこと。

学習の例

○ ○さんの本のしようかい

① わたしがしようかいするお話は、「龍の子太郎」です。

② これは、太郎が、りゅうになったお母さんをさがすために、たびに出ます。

③ わたしが一番おもしろいと思ったのは、初めは、なまけ者だった太郎が、おににさらわれた友だちを助けに行くところとちゅうで、いろいろな力を身につけて、強くなっていることです。

④ 身につけた力で、おににたいじや人助けをするので、読んでいううちにわくわくしてきます。

⑤ みなさんも、ぜひ読んでみてください。

主語 これは、 述語 たびに出ます。

述語は、どちらがよいでしょうか。

②の他にも主語と述語が正しくない文章があります。番号を選んで、正しく直しましよう。

【出題の趣旨】
文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことができるかどうかをみる。

【過去の類似問題】
平成27年度
全国学力・学習状況調査
A 2

